

令和 4 年度

教職課程

自己点検評価報告書

植草学園短期大学
こども未来学科

令和 5 年 3 月

植草学園短期大学 教職課程認定学科

こども未来学科

全体評価

本学では、学科の専任教員 11 名全員が教職課程自己点検・評価委員を務め、学務課、実習支援室、キャリア支援課、教職・公務員支援センター、入試・広報課、企画課一体となって「教職課程」を協働的に展開している。入学に際してのアドミッション・ポリシーの提示、カリキュラム・ツリーを活用した入学時のガイダンス、『植草学園短期大学ディプロマ・ポリシーに基づく「幼稚園教諭免許・保育士資格取得のための評価シート』及び「GPS-Academic」等に基づく学修成果の可視化による教職科目の充実及び教育実習の支援、就職支援等を組織的に行っている。また、本学の教職課程の特色として、特別支援教育・インクルーシブ保育、iPad を活用する教育実践を始めとする ICT 教育、「全国学校・園庭ビオトープコンクール 2021」で日本生態系協会会長賞を受賞した『共生の森』の自然環境を活用した「環境」や「食育」の授業の展開等が挙げられる。これらの特色ある教育活動を展開する中で、時代が要請する今日的な実践力が学生の資質・能力として育まれていると考えている。

今後の大きな課題は幼稚園への就職希望者が減少傾向に歯止めをかけることである。幼稚園協会をはじめとした地域の連携の中で、厳しさが指摘される教育実習のあり方、「働き方改革」等について検討し、「幼稚園教諭の魅力」の発信を強めたい。

植草学園短期大学 こども未来学科

学科長 佐藤 慎二

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	2
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	4
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	6
III	総合評価	8
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	8
V	現況基礎データ一覧	9

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：植草学園短期大学こども未来学科
- (2) 所在地：千葉県千葉市若葉区小倉町1639番3
- (3) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数： 教職課程履修148名／学科全体148名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科（領域）とも）11名／学科全体
11名

2 特色

植草学園短期大学こども未来学科は、障害等のために特別なニーズのある乳幼児・児童の保育・教育の専門性を備えた幼稚園教諭・保育士・障害関係施設の指導員など、広く、福祉・教育に従事する専門性を備えた人材を養成する。

幼稚園・保育所における障害等のある幼児の受け入れが進み、インクルーシブ保育・教育の専門性を備えた幼稚園教諭・保育士の養成が強く要請されている。また、児童福祉施設、特に障害関係施設からは、障害福祉・支援の専門性を備えた人材が求められている。

本学卒業時には、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格を取得、また選択すれば特別支援学校教諭二種免許状取得が可能である。

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

本学では、学科の教員全員と関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施するため、学科会議・教務委員会を毎月開催し、教育実習を核とする教職課程の進捗状況を組織的・協働的に確認している。

徳育を教育の根幹とする建学の精神並びに学則第 1 条に示す「共生社会の実現と地域社会の発展に貢献し得る有為な人材」の育成を目指している。それに基づき『履修要項』に「学位授与方針」を明記し、入学時のオリエンテーションで説明し、目指す教師像について周知・確認している。

また、教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）の可視化を図るため、ディプロマ・ポリシーに基づく「幼稚園教諭免許・保育士資格取得のための評価シート」を学生に示すとともに、入学時と 2 年次後期に「GPS－アカデミック」（「思考力」「姿勢・態度」「経験」の視点から、その能力を可視化するアセスメント）を実施している。また、卒業時評価として「卒業研究」については、「卒業研究評価ルーブリック」を活用している。

また、年 4 回開催される教職課程自己点検・評価委員会において節々でチェックしている。

〔長所・特色〕

小規模の短期大学であるため、全教員が教職課程自己点検・評価委員会に所属することで学科会議と連動させながら情報共有・改善を図っている。

学則第 1 条に「共生社会の実現」を明記する希有な短期大学であり、障害や困難性を抱える人をつつみこむインクルーシブな支援ができる人材養成を行っている。

本学の学生は幼稚園教諭・保育士を志して入学してきているため、その夢を実現できるよう、学習の遅れや配慮が必要な学生については担任任せにせず、学科全体で支援する体制を整えている。また、GPA 値や「GPS-Academic」等の客観的な指標と学生による「自己評価」を合わせて目指す教師像に向けて学修成果を可視化している点は本学の特色である。

〔取り組み上の課題〕

各授業においても本学の理念と目指す教師像について触れているが、2 年間の教職課程のなかで更に具体化できるように検討する必要がある。また、学科全体での支援体制の構築はできているが、近年、支援を要する学生が多くなり、保護者対応も含めて個別対応せざるを得ない場面が増えている。学科の教員と実習委員会及び関係教職員との一層の協働体制が求められている。また、可視化のツールは様々な活用されるようになってきたが、今後はシステム上の一元化が求められている。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1－1－1：令和 4 年度履修要項 附学生生活の手引き 植草学園短期大学
- ・資料 1－1－2：幼稚園教諭免許・保育士資格取得のための評価シート
- ・資料 1－1－3：植草学園大学・植草学園短期大学 GPS-Academic 活用事例

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

よりよい教職課程の実現のために研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。教職課程の運営に関しては、教職課程自己点検・評価委員会と学科会議を連動させ、教職課程担当と事務職員との協働体制を整えながら行っている。特に、教職課程の改善の必要がある場合には学科会議と教務委員会が協働して検討する。資格及び免許に関係するカリキュラム改定については、フローチャートに基づき、チェック体制を整えている。

教職課程教育を行うための環境として、ICT 教育については、iPad、パソコンの整備及び Wi-Fi 環境を整え、Google for Education を利用し授業で活用できるようにしている。そのほか、グラウンドはもとより、食育・環境教育に資する「共生の森」や畑を有している。また、教職課程の質的向上のため、授業評価アンケートを基に、各教員が担当授業科目において改善計画を立て、必要に応じて学科会議で共有している。

教員養成の情報公開は、大学ホームページ内にて行っている。また、教職課程における自己点検評価を行い、学科における教職課程の在り方、自己点検の意義など共通理解を図っている。

〔長所・特色〕

本学は、ICT 活用のための設備の充実や食育・環境教育のための「共生の森」を所有・整備し、授業において活用しているところは特色である。また、教職課程における自己点検を行うにあたり、教職課程自己点検・評価委員会を置き、教員全員を委員としたことにより、教職課程について全学で取り組んでいる点については長所であると言える。

〔取り組み上の課題〕

教職課程自己点検を行うことにより、改めてシラバス作成やコアカリキュラムについて、教職課程の面からも確認することができたが、継続的な実施方法など、検討していく必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1－2－1：令和 4 年度授業評価アンケート結果（HP）
https://www.uekusa.ac.jp/introduction/edu_info
- ・資料 1－2－2：植草共生の森紹介（HP）
https://honbu.uekusa.ac.jp/contributions/chiikirenkei/forest_symbiosis/

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

本学では、建学の精神と本学学則を踏まえて「入学者受入方針」をホームページ、入学試験要項及びガイダンス等で幅広く周知し、本学の理念に共感する学生の募集活動を展開している。2年間という限られた期間であるが、共通基礎科目と専門科目、必修科目と選択科目を体系化することで、学生の主体的学修とキャリア形成に資する教育課程を構成している。また、履修の目安・基準として「カリキュラム・ツリー」を示し、学生が履修しやすいようにしている。併せて、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、本学教職課程に即した適切な規模の学生を受け入れている。

学生の適性や資質に応じた教職指導を行うため、『植草学園短期大学ディプロマ・ポリシーに基づく「幼稚園教諭免許・保育士資格取得のための評価シート」』を活用し、目指す教師像に向けて学生の自己評価を促している。また、1年次から卒業まで適時適切に全学生と個別面談する体制を整えており、キャリア支援課とも協働しながら学生のキャリア形成を支えている。

〔長所・特色〕

障害関係の選択科目を多く開講し、希望する学生には「特別支援学校教諭二種免許」を2年間で取得できるような教育課程を有している点に大きな特色がある。また、小規模校であることを生かし、学科全体・全教職員で、全学生を支援する体制と雰囲気がある点は長所である。

〔取り組み上の課題〕

2年間で本学独自で設定した必修科目も修得するため、学生の多忙感を否定できない。また、少子化・高校生人口の減少に十分な対応ができず、学生募集が大きな課題となっている。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料2-1-1：令和4年度履修要項 附学生生活の手引き 植草学園短期大学（再掲）
- ・資料2-1-2：幼稚園教諭免許・保育士資格取得のための評価シート（再掲）
- ・資料2-1-3：2022年度実習の手引き

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

本学は1年次から担任による個別面談の体制を整えており、「キャリアガイダンスⅠ」（1年次）、「キャリアガイダンスⅡ」（2年次）科目において就職のイメージ全般を高めている。更に教職への取り組みについては、実習関係科目を中心に具体的な教師像を意識できるよう、関連科目と協働しながら学生の意欲や適正を把握し支援している。個別支援と全体指導の循環とニーズに応じた相談ができるように教職・公務員支援センター、キャリア支援課一体となって組織的な支援体制を整えて

いる。

教職を希望する学生に向け、全千葉県私立幼稚園連合会、千葉市幼稚園協会、千葉県教育委員会等とも協力し、講話を開講したり、各種イベントを紹介したりしている。また、(コロナ禍で現在はオンライン・オンデマンドであるが)卒業生の話聞く会や就職説明会を学内で開催している。また、Web 上でも情報が得やすいよう、幼稚園等の求人情報を地区別に検索できるようにしている。その結果、希望する全ての学生 72 名が幼稚園教諭二種免許を取得し、そのうち 12 名が幼稚園に就職した(※それ以外の学生の多くは認定こども園及び保育所、施設関係)。

また、希望者は「特別支援学校教諭二種免許状」を取得でき、植草学園大学での小学校教諭二種免許状取得のための科目等履修制度も整えている。また、教職支援センターでは採用試験に向けた支援体制を徹底している。

また、地域の多様な人材等との連携を図るため、幼稚園園長講話、附属園との交流会等、幼稚園で働くイメージを具体的に描けるように教育課程を組織している。

〔長所・特色〕

学科会議を中心に学生の情報を共有し、全教員の協働体制を整えている。また、希望者全員就職を目指し、全学的に支援する体制を整えている。

本学のホームページを活用し、学生への情報提供を行うだけでなく、きめ細かな相談支援体制を整え、教員採用試験に向けて、教職・公務員支援センターによる徹底した支援、及び附属園における体験や本学「共生の森」に園児や子どもを招いての活動に特色がある。

〔取り組み上の課題〕

幼稚園への就職希望者は減少傾向であるが、原因の一つとして、学生が教育実習を厳しく感じ、就職を避けるケースが多い。実習の抜本的な改善が必要である。また、実際に就職しても求人票と実際の勤務が違う状況があり、改善に向けて幼稚園協会等との協議が必要と思われる。

附属園の園児や先生方との交流については、実際の仕事とつながることもあり、更に活性化させていきたい。

また、支援を必要とする学生が増えていることもあり、求人票と相談支援を行う学科、教職・公務員支援センター及びキャリア支援課との一層の連携が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1：シラバス（キャリアガイダンスⅠ，Ⅱ）
- ・資料 2-2-2：全千葉県私立幼稚園連合会・千葉市幼稚園協会・千葉県教育委員会の講話 案内

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

本学は「徳育」という建学の精神と学則第1条にある「共生社会」という理念が明確であり、それに資する人材の養成という教職課程教育を実践している。

また、コアカリキュラムに対応した教職課程カリキュラムを編成し、教職課程科目以外の科目も含めて「カリキュラム・ツリー」として学生にも明示し、体系化された学びが実現できるようにしている。

今日の学校教育に対応するため、本学ディプロマ・ポリシーに基づく「幼稚園教諭免許・保育士資格取得のための評価シート」は関係審議会の答申や千葉県教育委員会の指標を踏まえ作成し、今日的な課題への対応を心がけている。

また、授業においては、教育における ICT の利活用ができる資質・能力を高めることができるよう、その対応科目として、必修科目1科目、選択科目1科目を開講、また教科指導法科目においても積極的に活用し、アクティブ・ラーニングやグループワークを取り入れ、チームで協働、課題解決を図る内容を展開している。

シラバスにおいては、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明確に示している。教育実習については、「教育実習に関する規程」を履修要項に示し、教育実習事前事後の科目を中心に丁寧で徹底した指導を行っている。

特に、教職課程の改善の必要がある場合には学科会議と教務委員会が協働して検討する。資格及び免許に関係するカリキュラム改定については、フローチャートに基づき、チェック体制を整えている。

〔長所・特色〕

人材の養成については明確な理念を有し、幼稚園教諭二種免許のみならず、選択科目の履修により「特別支援学校教諭二種免許」を2年間で取得できるような教職課程を構成している。特別なニーズ(障害、貧困、虐待、外国人等)のある人たちへの支援に力を入れた課程としている点は特色である。

今年度から幼児教育での実際の ICT 活用場面を動画で確認し、更に iPad を活用した幼児向けの保育の体験学習を取り入れ、シラバスは学生がいつでも確認できるよう、Web でも公開している。また、教育実習を事情により欠席した学生についても、丁寧に個別指導を行っている点は特色である。

「教職実践演習」では実際に子どもを招いての「模擬授業」を計画・展開・総括している点は大きな特色である。

〔取り組み上の課題〕

幼稚園教諭二種免許及び特別支援学校教諭二種免許を2年間で取得できることが長所ではあるが、学生が多忙となっていることが課題である。教育課程の編成については、関係審議会・答申などに十分留意しながら、今日的な課題に取り組んだ教育課程編成とすること、また、「基準項目2-2 教職へのキャリア支援」にも記載しているが、幼稚園によって実習内容に大きな差があることや、「教職実践演習」を2年次後期の軸として、2年間の学びが体系化されるよう、見直しをしてい

くことが今後の課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 3-1-1：令和 4 年度履修要項 附学生生活の手引き 植草学園短期大学（再掲）
- ・資料 3-1-2：植草学園短期大学こども未来学科教育実習に関する規程
- ・資料 3-1-3：シラバス（教職実践演習）
- ・資料 3-1-4：「植草学園大学・短期大学におけるカリキュラム改定手続き及びチェック機能～資格・免許に関わる改定に当たって～」に基づく手続き確認表

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

幼稚園教諭免許を取得することもあり、教育実習を核としながら、1 年次の附属園での体験、子育て支援・教育実践支援センターでの体験、附属園児との交流会、学内イベントにおける幼児との交流等、実践的な指導力が育成されるよう体系化している。また、ボランティアを推進するため、選択授業科目として、「ボランティア体験」を置き、ボランティアとその振り返りを行うことで単位認定を行っている。

地域との連携については、本学教員と幼稚園等との関係が深いこともあり、常に確認した最新事情を踏まえ、授業づくりを行うことを心掛けている。また地域の幼稚園等への教育実習充実のため、本学教員、実習支援室及びキャリア支援課等と幼稚園協会が組織的な連携を図っている。また、実習先への事前訪問を行う、など丁寧な連携支援体制を整えている。

〔長所・特色〕

幼稚園教諭免許を取得する教職課程においても「特別支援学校参観」を組み入れている。本学と特別支援学校とのつながりが深いこともあり、特別支援学校でボランティアを行う学生が多いこと、また、教育委員会から講師を招き、特別支援学校教諭二種免許取得希望者向けに特別講座の開講、礼儀作法も含めた幼稚園実習事前指導を徹底して行うことは本学の特色である。

また、本学教員が附属園の園長を兼任していることや現状説明でも述べたとおり、教員と幼稚園等との関係性が深いことで、常に最新の状況を学生に伝えている点は本学の長所となっている。

〔取り組み上の課題〕

幼稚園と児童発達支援センターを並行利用する幼児が増えていることから、その連携も視野に入れた授業内容の検討、コロナ禍でボランティアそのものを受け入れない施設が増え、学生の現場での体験の機会が失われていることの対応、またその一方で、(附属)幼稚園等と連携した実践的な取り組みが求められている。

他の基準項目でも課題としているが、幼稚園実習の改善を更に強く働かけたい。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 3-2-1：全千葉県私立幼稚園連合会・千葉市幼稚園協会・千葉県教育委員会の講話 案内
- ・資料 3-2-2：2022 年度実習の手引き（再掲）

Ⅲ．総合評価

基準領域 1 「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」においては、教職課程教育においても建学の精神並びに、共生社会の実現に貢献し得る人材の育成を柱とした。その上で、短期大学のディプロマ・ポリシーを踏まえた教師像のあり方を学科の全専任教員で構成される「教職課程自己点検・評価委員会」で共有し、教職課程に反映することができた。また、ICT を活用することで学生の学びの可視化に向けた評価改善に努めている。今後は本学科の目指すインクルーシブな支援ができる人材の育成に関して、更に教科の横断的な取り組みを深め、その実現に取り組んでいく。

基準領域 2 「学生の確保・育成・キャリア支援」においては、これからの保育・教育における人材に求められる資質としての「インクルーシブな支援ができる人材」の育成の実現に向けて教職課程を通しての育成に努めている。キャリア支援においては、1 年次、2 年次に設定しているキャリア教育科目と学内の関連科目との連携、学外の団体や附属園などの資源を活用した養成を行うことができた。学生の幼稚園への就職希望が減少している背景については、その要因について学外に発信をし、改善を目指す必要がある。

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラムにおいては、本学科の特色を教職課程において具現化するために、附属園との協働による実践的指導の質の担保、ICT の活用を通しての共同的な学びの設定などについては、評価を踏まえて改善をしていく。合理的配慮の実現にもつながる ICT の活用については、具体的な活動を通して、教職課程全体として学生の実践的指導力の養成につなげるための連携が課題である。

Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

令和 4 年 4 月 1 日 植草学園短期大学教職課程自己点検評価委員会規程制定

令和 4 年 6 月 1 日 第 1 回教職課程自己点検評価委員会にて、報告書作成プロセスについて確認した。

令和 4 年 10 月 5 日 第 2 回教職課程自己点検評価委員会にて、報告書執筆担当者確認。担当者に依頼を進めることとした。

令和 5 年 3 月 13 日 第 4 回教職課程自己点検評価委員会にて、報告書案を確認。3 月末にはホームページに公表することとした。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 植草学園					
大学・学部名 植草学園短期大学					
学科・コース名（必要な場合） こども未来学科					
1 卒業者数，教員免許状取得者数，教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数				72	
② ①のうち，就職者数 (企業，公務員等を含む)				72	
③ ①のうち，教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)				72	
④ ②のうち，教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数) (認定こども園（幼保連携型・幼稚園型）就職者を含む)				22	
④のうち，正規採用者数				21	
④のうち，臨時的任用者数				1	
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（ ）
教員数	7	3	1	0	
相談員・支援員など専門職員数 キャリア支援課 4名					
教職・公務員支援センター 4名					